

プレ「知のオリンピック」オンライン大会発表予稿調査票 (Ver. 3.1)

【評価基準】①新規（奇）性、②論理性、③有効性、④持続可能性、⑤社会貢献性

【SDGsとの関連】当大会6つの競技分野毎に設定しているSDGsを意識して予稿をお考え下さい。

項目	発表予稿	
発表者氏名	岸 和良	
研究クラスタ名	生命保険の知	
発表テーマ	健康増進型保険 vitality で得た知見を生かした DX 人財育成	
参加方式（右の候補から選んで下さい）	Zoom オンライン参加	
【序論】 1. 現状に対する課題認識 （どのようなイノベーション等の課題に取り組むのか）	昨今、DXで、新しい商品、サービスを開発し、顧客に提供し、ていく必要があるが、日本企業ではなかなかうまく進んでいない。これは、人材がDXに適応していないからである。DXに対応できる人財を早期に大量に育成する必要がある。	
【背景・思い】 2. イノベーション課題解決のための思い・背景 （何故、その思いに至ったのか）	DXの仕事は新しく覚えることが多い上、スピード感が早いので、旧来型の人財には難しい。DXの仕事には向く人、必須知識などがあるのではないかと考えた。	
イノベーション課題解決方法の検証	【価値等の設定】 3. 新たな価値等の設定 （対象とする顧客や新しく生まれる価値等の設定）	旧来型の人財（レガシー人財）を短期間でDX人財に変換する価値。
	【ニーズ】 4. 価値等を高めるためのニーズの明確化 （対象とする価値・市場ニーズ（顕在・潜在など）の明確化）	DXをしたいと思っているが、レガシー人財は多いが、DXができる人財が不足している企業や団体など
	【システム】 5. ニーズ対応システムの設計等 （上記ニーズに対応する仕組みやシステムの設計等）	①DXに向く人をデータで選定するアセスメント ②ビジネス発想研修。デジタル（zoom、スラック、5分動画）を使った継続的リモート教育
	【結果・新たな事業価値】 6. 当イノベーションにより生まれた結果や新たな事業価値 （上記新システムにより生まれた結果や新たな事業価値）	レガシー人財から効率的に向く人を選び、短い時間でビジネス発想力を高めた人財に育てるという事業価値
【結果の考察】 7. 当イノベーション等の結果考察 （当イノベーション提案・研究により生まれた効果や今後の課題等に関する考察）	この取り組みは市場に評価されつつあり、10社以上の企業から問い合わせ、共同での取り組みがしたいとの申し出あり。	